

2020年2月10日

日本ユニシス
通信型ドライブレコーダー「無事故プログラム DR®」に新機能
業界初！バック事故防止のための映像付きイベント通知 2 機能をリリース！
 ～ 社用車の安全運転を支援し、事故のない社会へ～

日本ユニシスは、法人向けに提供している通信型ドライブレコーダー「無事故プログラム DR」に、バックギア入力後の安全確認不足・速度超過イベントを検知する機能を新たに追加し、2月4日から提供を開始しました。

本新機能は、バックギア入力後にあらかじめ設定した秒数を空けずに後退したり、設定した速度を超えて走行した場合に危険イベントと判定し、音声によるドライバーへの注意喚起および、管理者に画像付きのメールを通知し、バック走行時の安全運転を支援します。

日本ユニシスは本サービスを駐停車時のマナー向上に役立てることで、社用車の安全運転の実現と事故の無い社会を目指します。

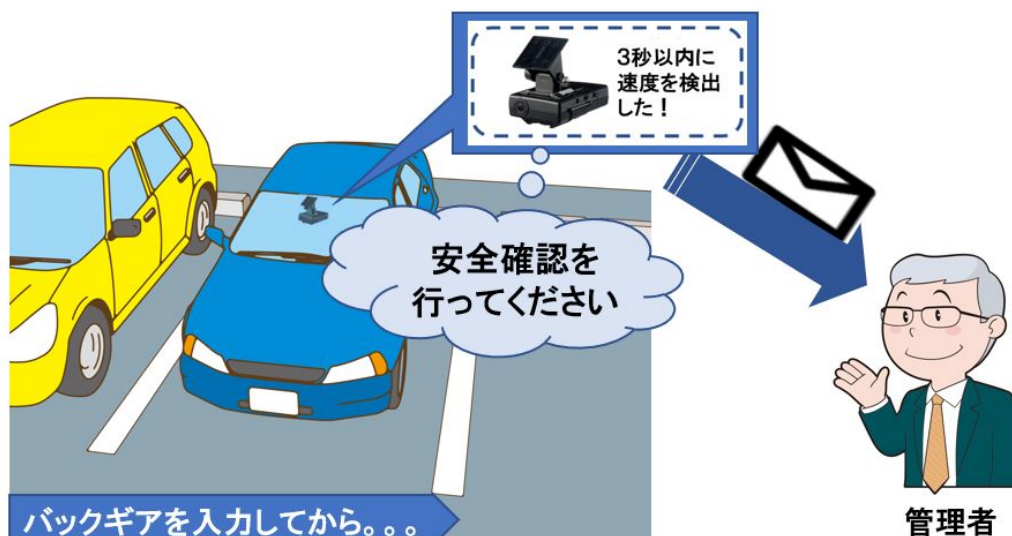
【背景】

弊社ユーザーへのヒアリングによると、配送を主とするある企業では年間発生事故のうちバック走行時の事故が約 4 割を占め、営業用途で社用車を利用する企業においても、駐車場などでの接触事故の割合が持続増加しており、社用車管理者は「バック時の事故の多さ」に悩まされていることがわかりました。そこで日本ユニシスは事故発生メカニズムに着目し、バック時の安全運転を「見える化」する新機能を開発しました。

【新機能の概要】

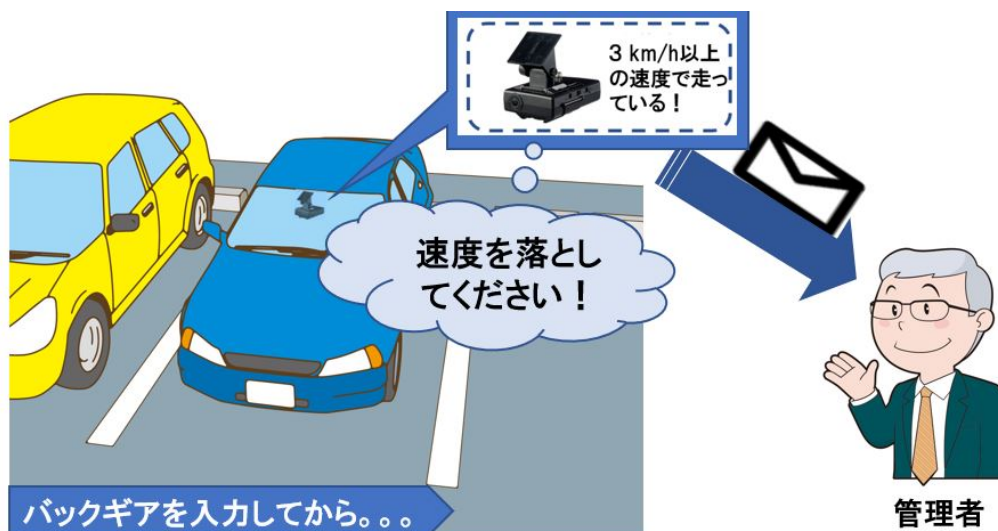
1. バック時安全確認不足の「見える化」

バックギアを入力後、あらかじめ設定^(注1)した時間内に秒数を空けずに後退（速度を検知）した場合に、ドライバーへの音声ガイダンス「安全確認を行ってください」による注意喚起^(注2)および、管理者に画像付きのメールで即時通知を行います。バック事故を起こす理由の一つに、周囲の安全確認をせずに急いでバックすることがあります。通知画像から目視による周囲確認、バックモニターの映像確認などを指導し安全運転を支援します。



2. バック時速度超過の「見える化」

バックギアを入力後、あらかじめ設定^(注1)した速度を超えた場合に、ドライバーへの音声ガイダンス「速度を落としてください」による注意喚起^(注2)および、管理者に画像付きのメールで即時通知を行います。バック時の最も重要な事故防止対策は、人が歩くほどの速さで走行することと言われており、バック時の速度の出しすぎを「見える化」することで事故防止を支援します。



※注1：秒数、速度はお客さまが Web サイト上で任意の値を設定できます。

※注2：音声ガイダンスの ON/OFF 設定は、お客さまが Web サイト上で設定できます。

【期待される効果】

安全運転は走行中だけでなく発車から駐停車の間まで常に意識しなければなりません。本機能により社用車管理者は今まで見えなかったドライバーのバック時挙動を確認できるようになり、ドライバーはバック時にまず周囲の確認を行い、そして速度を抑える習慣を身に付けることができます。バック走行時の安全運転を「見える化」することで、狭い道路での車の譲り合いや小さな駐車場といったバック操作の難しい場所などでの事故削減の効果が期待できます。

【今後の取り組み】

本機能は、無事故プログラム DR のユーザー車両 1,500 台の導入が決定しており、今後は弊社のユーザーの半数にあたる 25,000 台への導入を進めていきます。無事故プログラム DR は、今後も事故のない社会の実現に向けて、ドライバーの皆さま、社用車管理者の皆さまの安全運転を支援する機能を開発していきます。

以上

■ 関連リンク：

・法人・運行管理者向け「無事故プログラム DR」 <https://dr.unisys.co.jp/>

※無事故プログラム DR は、日本ユニシス株式会社の登録商標です。

※その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載の情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

<本ニュースリリースに関するお問い合わせ>

https://www.unisys.co.jp/newsrelease_contact/